

令和7年度 静岡市生活困窮世帯、ひとり親家庭等の子どもへの学習支援業務及び静岡市生活困窮世帯、ひとり親家庭等の子どもへの生活支援業務 企画提案評価表

評価項目			評価指標	配点	
ア	業務に対する基本的な考え方等				
	(ア)	業務に対する基本的な考え方	・子どもの貧困の問題を的確に捉え、貧困の世代間連鎖が発生しないようにするという業務の趣旨・目的を十分に理解して、効果的に業務を進められるか。	10	
	(イ)	本業務の推進体制	・本業務を進行できる体制と専門性を有する組織か。	3	
	(ウ)	関係機関との連携に必要なネットワークの状況	・本業務を履行する上で必要な関係機関・社会資源とのネットワークを有しているか。	10	
イ	業務実施体制等				
	(ア)	場所及び設備			
		a	実施場所及び設備	・集中して学習に取り組める環境にあるか。 ・参加者の利便性が考えられているか。	5
	(イ)	運営方法			
		a	業務の開催曜日、開催時間	・曜日、時間は実現可能か。	3
		b	対象学年	・目的に合致する学年を対象としているか。	3
		c	ボランティアの募集、選定基準、登録管理方法	・適切な人材確保が期待できる募集手段であるか。 ・業務を履行する上で十分な選定基準であるか。 ・具体的で確実な管理が見込まれる登録管理方法であるか。	5
		d	ボランティアへの研修指導方法及び内容	・業務を履行する上で十分な研修指導方法であるか。	5
		e	各会場での必要な役割とそれに対する配置人数等の考え方	・想定している役割、配置人数等は効果的か。また、想定している参加者数に対応可能か。	5
		f	各会場でのボランティアの管理、指導方法	・具体的で確実な管理方法であるか。 ・業務を履行する上で十分な指導方法であるか。	5
	(ウ)	業務実施内容			
		a	業務全体の管理方法	・想定している管理方法は効果的か。 ・具体的で、確実な業務管理が見込まれる方法であるか。	5
		b	業務の具体的な支援内容	・想定している支援内容は効果的か。また、実現可能であるか。 ・単なる学習支援でなく、福祉的な視点を有し、子どもの気持ちに寄り添った支援が可能か。 ・子ども及び親から進路や生活に関する相談があった場合に適切に対応することが可能か。	10
		c	危機管理に関する考え、想定される危機に関する対応方法	・想定できる危機に対して、十分対応できる内容であるか。	3
		d	業務の自己評価と改善の実施方法	・自己評価の実施頻度、方法は効果的であるか。	3
		e	子どもが喜んで参加し、欠席しないための方法	・具体的で効果のある方法であるか。	10
ウ	自由提案		・プロポーザル（企画提案）仕様書に記載されている以外の提案について、具体性があり、有効な提案となっているか。	5	

エ	過去の実績	・（過去に静岡市の学習・生活支援事業受託実績のある事業者）過去に実施した子どもの学習支援・生活支援業務の取り組みについて、十分な実績があるか。 ・（過去に静岡市の学習・生活支援事業受託実績のない事業者）子どもの学習支援・生活支援業務を行うのに必要となる、子どもの貧困対策や困難を抱える子ども及び親への相談支援等の実績はあるか。	10
合 計			100